

# 学燈 *gakutou*



【第14号】

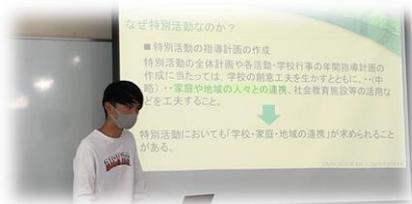
## ～院生が語る教職大学院での学びの日々～

今回は、各コースの学びについて紹介します。各コースとも、充実した“学びの秋”を過ごしました。

### 【教職実践開発コース（ストレートマスター）1年】

「授業実践高度化演習」は、ストレートマスターの1年生が授業実践における教材研究及び学習設計における基本的な内容と方法を授業実践から導き出すことができるようになるために、教科等の授業について事例研究を行う授業です。

実際の授業では、毎週、担当の院生1名が今までに提唱されている教科の授業理論を「先行研究」として20分で紹介します。さらに、別の1名が自身の課題研究に基づいた「実習校での授業実践」を20分で発表します。それぞれの発表後、院生同士で協議・検討を行い、校種や教科にとられない共通の課題の把握や授業実践の工夫を学んでいます。



今年度、この授業を履修しているストレートマスターの実習校は、小学校5名、中学校3名、特別支援学校1名となっており、異校種異教科から多面的多角的な視点で協議・検討を行うことができます。この授業で学んだことを学校実習の中で実践していきます。

### 【教職実践開発コース（ストレートマスター）2年】

ストレートマスターの院生は、8月末まで学校実習が行えませんでした。その期間、研究や学校実習に生かすための取り組みを行ってきました。その一例を紹介します。

大学院の授業で、地域連携やそのための方策について学ぶ中で、地域の教育資源を生かすことの重要性を認識しました。しかし、私たちは実習校の所在する地域のことについて知らないことが多くあります。そこで、実習が行えない期間を利用して、実習校の地域調査を行うことにしました。

どのようなものがあるのか、どのような方がいらっしゃるのかなど、実際に歩いて調査を行うことで、普段は車で通り過ぎるだけのところに、多くの教育資源を発見することができました。また、地域調査で分かったことをもとに、それをどのように教育活動に生かすことができるのかということを考えることができました。

ゼミでは、地域調査の結果をもとに、「地域にある教育資源を生かしたカリキュラム・マネジメント」について発表しました。また、ZOOMを用いてゼミの様子を公開することで、他ゼミの院生や学部生からも幅広い意見をもらうことができました。

地域連携の重要性については、多くの場面で学んでいます。今回の地域調査を通して、現地に出向かなければ分からないことがたくさんあることに気付きました。現在、実習校でも地域と連携する活動が多く企画されています。今回の地域調査で新たに知ったことや考えたことを、少しでも実習校の教育活動に生かすことができるよう、様々な活動に積極的に参画していきたいと考えています。さらに、今後、教員として赴任した学校でも、地域のことを自分の目で確かめることを大切にしていきたいです。

## 【学校経営コース・特別支援教育コース1年】

学校経営コース・特別支援教育コースのM1では、Zoomを使って宮城教育大学教職大学院の現職院生と交流を行っています。9月17日に1回目、10月23日に2回目を実施しました。1回目はNITSオンライン研修で学んだことのリフレクションを、2回目は互いの研究についての意見交換を行いました。山口大学の「地域連携教育」、宮城教育大学の「防災教育」と互いの強みを存分に活かした交流を行いました。今後は院生間の交流にとどまらず、各学校、各市町教委等の研修会に講師や指導助言者として相互に参加し合うなど、さらに連携を深めていきたいと考えています。



### <山口大学院生 Yさんの感想>

防災教育の取組をお聞きすることができて、とても参考になりました。私の原籍校は海の傍にあり、津波を想定して近隣にある保育園との合同避難訓練や引き渡し訓練を行っています。しかし、宮城県ではそれだけに留まらず、防災意識を高めるために教科との関連を図ったり、消火活動や炊き出し、避難所開設などの訓練を行ったりするなど、具体的な取組をされているというお話が印象に残りました。また、避難所を誰が運営するのかということが問題となったと伺い、地域と共同で取組を行うことの重要性を認識しました。

### <宮城教育大学院生 Mさんの感想>

コミュニティ・スクールや地域連携についてお話しされていましたが、初めて聞く取組や参考になる点が多く、刺激を受けました。学力向上の取組に学生を積極的に活用したり、地域産業の活性化とコラボレーションしていたり、まさに「社会に開かれた教育課程」を実現すべく取り組まれていることが分かりました。地域資材を活用する方法がたくさんあって驚きました。

## 【学校経営コース・特別支援教育コース2年】

学校経営コースと特別支援教育コースの現職教員が受講する教職必修選択科目（学校経営力向上科目群）に「教育行政インターンシップ」があります。7～9月にかけて、市町教育委員会で実習を行いながら、会議や研修会の準備・運営等を経験します。教育行政機関や管理職としての視点を持ち、教育施策と学校と連動した取組について学びを深めました。

下松市で5日間のインターンシップを行った院生の声を紹介します。

大きな柱として、「令和2年度第1回下松市コミュニティ・スクール推進協議会及び第1回地域連携担当者合同研修会」に向けた企画・運営を行いました。各校の校長・学校運営協議会長・地域連携担当教員・CSコーディネーターが一堂に会して全体で行うのは今年度最初で最後です。せっかくの機会をどう生かすのかが企画の大事なポイントになりました。様々な立場の方々に、いかに分かりやすく、実のある研修を設定できるかアイデアを出し合いました。当日は、会場設営や資料配付、受付などの業務を行い、無事に研修会を終えることができました。

その他、課長補佐や指導主事に同行して市内の学校運営協議会を参観したり、教職員の研修内容について考えたりと様々な経験をさせていただきました。教育委員会として、市内各校にどのような会議や研修会を設定するのか、国や県の施策をどのように啓発していくのかと考えたり、準備を行ったりする経験ができました。また、場の雰囲気を肌で感じることもできたのもよい実習研修となりました。

今回は地域連携を中心にインターンシップを計画していただきました。学んだり考えたりしたことを今後の成長に生かしていきたいと思えます。

